



株式会社アットスクール
代表取締役
すずき まさき
鈴木 正樹 さん

商社勤務を経て教育機関に転職し、不登校や学業不振の背景に発達障がいや学習障がいが多いことを知った鈴木正樹氏。彼らの支援をしたいと願い、2005年に株式会社アットスクールを設立。発達に障がいを持つ児童・生徒の学習支援に携わりながら、各地域での講演や学習が苦手な子どもたちの教材開発を行っている。一人ひとりをていねいにサポートする取り組みは地元メディアにも多数取り上げられた。子どもたちが必要としている対応や、教育理念について話を聞いた。

▶2015年11月28日に大阪にて開催されたパネルディスカッションの様子



[school data]

アットスクール

【草津本校】
滋賀県草津市大路 1-18-28 藤井ビル 2F

【大阪校】
大阪府大阪市福島区福島 7丁目 14-18
恒和殖産福島ビル 601号

HP : <http://www.at-school.jp/>

発達障がい・学習障がいに特 将来の就業と自立のため、ソ

化した塾 & サポート校 ソーシャルスキルを身につける

将来自立する日に備え “生きていくために必要な力”をつけたい

『アットスクール』は、滋賀県と大阪府に学習拠点をもち、発達支援・個別指導・ソーシャルスキル・心理教育相談に特化した塾です。就学以前の児童から成人まで幅広い層に、個別学習支援計画書 (ISSP) やカウンセリング、ソーシャルスキルトレーニングをはじめとする支援を行っています。若年層に対しては、教育・医療・福祉・各機関などの連携によって、子どもたちの自己肯定感を高める自立支援に取り組んでいます。

発達障がいや学習障がいを持つ子どもたちは、何かしらの苦手分野を持っています。計算が苦手、英語が苦手、文字を読むのが苦手……。しかし、例えば道具を使ったり、情報の伝え方を工夫したりすることで、何とかなるケースも非常に多くあります。

発達に偏りがある子どもたちに必要なのは、将来自立するために必要な、“生きていくために必要な力”を身につけることだと思ふのです。

学問ももちろん大切です。しかし学校を出た後、社会で生きていくためには、「出社時間を守らなければならない」であるとか、「人との約束に遅刻しそうなったら」「困った時はどうすればいい」といった、ソーシャルスキルが身につけていることが求められます。そのためにはどのようなことに気をつけてゆけばいいのか、本人や家族とともに考え、サポートしていくことをアットスクールでは行っています。

子どもの特性は十人十色 個に応じた学習支援が必要

過去に、高校1年生で進学校から通信制高校へ転入したAくんという生徒がいました。暗記に強く、中学卒業までは良い成績を取っていました。しかし、いざ高校に進学してみると、暗記力だけでなく柔軟な思考力も求められるようになります。Aくんは授業についていけなくなり、居眠り……。先生からは無気力な生徒だと評価され、同級生からは馬鹿にされ、自信をなくしてしまいました。テストでは赤点が続出し、ついに留年との判断が学校から下されます。ただ、本人からしてみたら昔は良い成績を取ってきたんだというプライドがあるわけですし、保護者も「せっかく難関の進学校に入ったのだから、何とか卒業させてあげたい」と惜しむ気持ちがあったようです。

私は今後について本人に選ばせました。「留年して、1学年下の子と一緒に勉強してもいいと思う。もしくは、今の学校より知名度は低いが自分のペースで勉強できる通信制高校に転入する道もある。君はどちらがいい？」と聞いたのです。すぐに気持ちの整理がついたわけではなく、一度単位制高校の編入試験を受けて落ちてしまったりしたもの、最終的には通信制高校に編入しました。自分のペースで勉強できることもあり、軽音のサークルを立ち上げたりと、充実した学校生活を送っています。

現在はさまざまな子どもたちに対応しているものの、最初からうまくいっていたわけでももちろんなく、過去にはいくつか

失敗もありました。例えば、言葉で説明されるのが苦手な子がいますよね。私はそういう場合に有効とされる、カードを使った視覚的な説明を試みようと思いました。しかし、うまくいきな

いのです。その時うまくいかなかったのはなぜか？それは、カードを使う前に「今まで言葉で説明していたことを、カードを使って説明しようと思うんだけど、どうかな？」と本人に事前の説明をきちんとしてあげれば、納得をしてもらえたと思います。

一言で発達障がいと言っても、その特性は十人十色で、診断名が全てではないと私は考えています。例えば「自閉症スペクトラム障害の人は全て、対人関係が苦手。こだわりが強い」などと決めつけてしまうと、本人の特性を見逃してしまうのではないのでしょうか。

一人ひとりに合わせるためには、個別対応が求められますので、どうしても手間はかかります。しかし効率の良さを重視してしまい、結局将来に必要な力がつかないというのでは意味がないと考えます。

高校の単位を取得する過程に ソーシャルスキルを組み込む教育

通信制高校のECC学園高校と提携し、アットスクールはサポート校の機能も持っています。『生徒が自分らしく自立していくためにはどうすればいいか』目的意識を持って過ごさせたいと考えています。そうした方針であることは保護者にも事前に

面談を行い、納得したうえで入学してもらいます。

高校の単位を取得していく過程で、ソーシャルスキルやキャリアスキルを伸ばしていけるよう工夫をしています。例えば、課題を忘れがちでトラブルになっている生徒には「予定の管理は大事なことだよ」と伝え、スマホのスケジュール機能に提出期限を書き込ませます。期限までに課題を完成させるには、いつから取りかからねばならないかという逆算をさせます。計画立てて行動する力を高校生のうちに身につけ、社会に出たときに困らないようにしようという工夫です。

当校での教育は、大学に行かせるための教育とは限りません。目指すのは自立と就労、そのための力をつけることです。生徒が大学進学を選ぶのであればもちろんそれで良いですし、普通科目の勉強にも取り組みますが、あくまで生きていくために必要なスキルを高校時代にしっかりつけさせたいと願っています。

今後、私が取り組んでいきたいのは、発達障がい対応ができる支援者を増やすことです。ニーズは広がっているにも関わらず、特性を理解して指導できる方は足りないと感じています。現在、「読み書きが苦手な子へのタブレット活用」「子どもの行動と心情の理解」等のテーマで特別支援教育支援指導員養成講座を各地で開催しています。教育関係者の方々にぜひお伝えしたいことがたくさんあります。ご関心を持たれた方がいたら、ぜひご連絡ください。

(談・構成本誌)